

## 平成29年度第1回香南市総合教育会議 議事録

1. 開催日時 平成29年5月25日(木) 9時00分～
2. 開催場所 夜須 大峰の里 1階 健診室
3. 議題
  - (1) 香南市学校等の規模適正化等検討委員会の設置について
  - (2) 新学期の状況について
  - (3) 不登校の改善に向けた取り組み状況について
  - (4) その他
4. 出席委員

|       |    |     |
|-------|----|-----|
| 教育委員長 | 清藤 | 好弘  |
| 教育委員  | 百田 | 久範  |
| 教育委員  | 山本 | 眞二  |
| 教育委員  | 中元 | 啓恵  |
| 教育長   | 安岡 | 多實男 |
| 香南市長  | 清藤 | 真司  |
5. 説明のため出席した者の職氏名

|           |    |    |
|-----------|----|----|
| 副市長       | 田内 | 修二 |
| 教育次長      | 田内 | 基久 |
| 学校教育課長    | 入野 | 博  |
| 生涯学習課長    | 田中 | 彰裕 |
| こども課長     | 山下 | 篤  |
| 福祉事務所長    | 関川 | 昌彦 |
| 学校教育課課長補佐 | 吉岡 | 園枝 |
6. 事務局職員の職氏名

|        |    |    |
|--------|----|----|
| 総務課長   | 小松 | 謙介 |
| 総務課長補佐 | 中島 | 貴也 |
7. 傍聴者 0名

## 8. 議事の経過の概要

次のとおり

### ○小松総務課長

ただいまから平成29年度の第1回香南市総合教育会議を開催いたします。

このたび長崎委員さんが4月29日に任期満了によりまして退任されまして、新しく百田久範委員さんが就任をされておりますので、今後ともよろしく願いをいたします。

それでは開会にあたりまして、清藤市長の方より開会の挨拶を申し上げます。

### ○清藤市長

皆さん、おはようございます。

本日は平成29年度の第1回の総合教育会議ということでございます。

お手元に会議次第、議事等もございます。また活発なご協議をしていただけたらと思います。

今日は、教育委員の皆さまにもお知らせがございまして。以前、教育委員会の方から岸本小学校については香我美小学校へ統合が望ましいという提言をいただいております。それ以降市長部局の方で保護者、様々な教育関係機関、あるいは地域の皆さんと色んな意見交換等もしてまいりました。

市として方向付けをきちっとお示しをする時期にもきており、市としては岸本小学校は香我美小学校に統合するのが望ましいという方向付けを6月議会の行政諸般の中でお示しをしたいと思っております。時期については約2年後の平成31年の4月を目処にこの2年間で準備に取り組んでいきたいと思っております。

準備と言いますと議会对応や、例規整備等があります。その他は、スクールバスをどうするかということが主になってくると思っておりますので、担当課で随時協議をして進めていきたいと思っております。

議会に先立ちましては検討委員会の設置や岸本小学校の保護者の皆さんとお話をする機会も作ってございまして。ご承知のように地元のまちづくり協議会の方でも様々な意見もございましたが、主となるのはやはり子供の立場に立って教育機関をどうするかということですので、子供にとって最良の形がどうなのかと、あるいは安全面を考慮した形はどうかと、また将来の人口動態等も見据えた形でどうして行くべきかに主眼を置いて方向付けを決めたということですので、どうぞよろしく願いを申し上げます。

### ○小松総務課長

それでは早速議事の方に入りたいと思っております。

本日の議事は、1つ目が香南市学校等の規模適正化等検討委員会の設置について、2つ目は新学期の状況について、3つ目が不登校の改善に向けた取り組み状況について、4つ目はその他となっております。

傍聴の方はいらっしゃいませんので、そのまま議事に入らせていただきます。

まず、1番目の香南市学校等の規模適正化等検討委員会の設置について、教育委員

会から説明をお願いします。

#### ○安岡教育長

この学校規模適正化検討委員会の設置についてですけれども、今年3月末に文科省の方から指導要領の改定が示されました。その中でも強く強調されておりますのが、主体的、対話的で深い学びという取り組みです。そういうことをしていくには子供達が話し合ったり、自分の意見を出し合ったりその意見に対して、また自分の意見を述べたりといったことが非常に大事になってきます。これは複式学級等でやっていきますと話し合っていくときに深まりがございません。というのは、指導する教員が片一方の例えば3年生の方の話し合いに入ると時間が来れば次の4年生の生徒につかなくてはならない。その間3年生の子供達は中断してしまうといったような事が起きてきます。そういった教育の中身を充実していくという面では、適正な規模が必要であるということです。

他にも地区懇談会の中で出てきたことで、中学校の部活動が非常に寂しくなっているという状況。これには一定の生徒数が必要だし、教員も必要である。指導者については外部指導者というのが盛んに言われておりますが、部活動というのは子供達にとって非常に感動も多く、そして、異学年との縦の交流といったものも含めて大事な教育活動の一環であります。

それからもう一つは、人数が少なく1クラスの場合であれば、クラス編成がないので、子供同士にトラブルがあっても同じクラスに居なければならないといったデメリットもございます。

そうしたことを考えて、香南市では将来的に見て保幼小中がどれくらいあればいいのか、人口減少を踏まえた上で専門家の意見も聞きながら、将来の方向付けをしていきたいと思っております。これは教育委員会だけでできるものではなく、市長部局や関係機関と協力しながらやっていかなければなりませんので、そのためには検討委員会条例を制定する必要があると思います。その条例について、田内次長の方から説明しますので、よろしくをお願いします。

#### ○田内教育次長

私の方から条例について説明をさせていただきます。お手元の資料1香南市学校等の規模適正化等検討委員会条例（案）で説明させていただきます。この条例につきましては先ほど教育長から説明がありましたように、香南市の保幼小中の適正規模または適正配置及び通学区域の適正化等につきまして中長期的な視野に立った検討をしていただくための検討委員会の設置条例となっております。

第1条では、設置目的について記載しております。第2条では、所掌事務につきまして第1条の目的を達成するための調査審議事項について規定しております。まず1つ目の香南市における保幼小中の適正規模、適正配置等に関する基本的な考え方につきましては、国・県が示しています手引き等は、そののままでは香南市には当てはまらないので、これらを参考にしながら香南市としての基本的な考え方、また適正規模と配置に関する具体的な方針等について審議をしていただきたいと思います。

第3条では、検討委員会の組織につきまして、学識経験者、まちづくり協議会等の代表、保護者の代表、学校長および市職員等の20名以内で委員会を設置したいと考えております。

次に第4条では委員の任期を、第5条では特別の事項を審議するため、必要に応じて臨時委員を置くことができる規定を。第6条では委員長及び副委員長について、第7条では会議について規定しております。第8条につきましては、必要に応じて部会を置くことができることを規定しております。部会における読み替え規定をこちらの方に記載しております。第9条では関係者からの意見聴取等について、第10条で委員会の庶務は教育委員会で行うことを規定しております。第11条では、この条例に定めるもののほか必要な事項は委員長が委員会に諮って定めると委任の規定をしております。

具体的なスケジュールにつきましては、第1回目を9月頃に開催したいと考えておりました。年度内に5回程度で遅くとも年度末には基本的な方向性・考え方を審議・答申・意見をいただきたいと考えております。簡単ですが委員会設置条例の説明とさせていただきます。

#### ○小松総務課長

それでは、先ほど教育長の方から説明がありました基本的な方針の部分と、次長から説明がありました条例案につきまして、意見交換に入りたいと思います。

ご自由に発言をお願いします。

#### ○清藤市長

先ほど教育長と次長の方から説明がありましたが、その背景というものがあるので、それを私の方から簡単にお話しさせていただきます。

岩手県知事をやられて総務大臣もやられた増田さんという方が、人口問題研究所という所と一緒に所謂『増田レポート』を出しました。これによると日本全国で、何十年後にはもの凄い数の人口が減少するという結果が出ていまして、それを基に国から各自治体に対し、総合戦略というものを作りなさいということになり、香南市でも総合戦略を作りました。

主眼は2060年ですから43年後です。43年後に香南市は人口3万人を目指すという目標を立てました。その目標についてどんな事をしていくのかという事が具体的な施策になります。具体的施策と言いましても人口の事ですから、一つは『定住・移住』ということになり、もう一つは子育て支援になります。

この2つが大きな柱ということになり、今の33,800人から、43年後に3万人を目指すということが1つ。それと、香南市は人口の減少率は高知県の中で一番少ない自治体です。自衛隊も来ましたし、高知市のベッドタウンということもあるでしょう。ただ外から見たらそうですが、中から見た場合、5地区の中で格差というのがあって、野市には民間事業者の開発によって、どんどん宅地化され、家が建っています。その反面、他の4地区が段々人口が少なくなっているという点が2つ目。

そういうことで、教育長の方からもお話しがありましたように、チーム競技の部活

ができる学校とそうでない学校が出てきます。合併した時の人口比率では、香南市全体に野市町が占める割合は48%位でしたが、今は57～58%位です。香南市の中学生の占める割合は、65%以上で、今は67～68%位ではないかと思います。つまり70%が野市中、残りの30%が香我美中、夜須中、赤岡中となっている。

吉川町の小学生が3月まで野球を活発にしている、中学校で野球部があるのは1つしかないから、その中学校に行くという状況。

大人の人口動態というよりも子供の人口動態の方が早く進むということになってまいります。ですから、それも踏まえた上で適正な規模と配置というものを考えていかなくてははいけない。以上です。

○小松総務課長

委員の方々、他に、先ほどの話を踏まえて何かありましたら。

○安岡教育長

それは教育委員会の中でも、話し合った。

○小松総務課長

分かりました。それでは条例案につきましては、6月議会に提案予定ということですね。

○安岡教育長

はい。

○清藤委員長

その条例の文章ですが、第4条の2項で『委員は再任されることができる』というのはもうすこし他に書き様がないですか。『委員は再任することができる』とか。『されること』というのはいかがなものか。

○田内教育次長

そうですね。することができる。されることができる。両方の使い方をしていますけれども、この言い回しについては専門家にもチェックしてもらっていますので、問題はないと思います。

○山本委員

先ほどご説明がありましたように、この香南市の人口動態につきましては、学校、幼稚園、保育所といったような運営の面を考えていきますと、野市の方へ集中していく傾向が非常に顕著になってきているということで、南海地震の関係もあってそのことをどういう風に捉えていくのか、いいと捉えていくのかどうかといったような問題もあるかもしれませんが、先に進む子供の異動が収束していくまでの各地域の学校等の運営といったものが大きな課題になってくる。

○百田委員

4月29日より教育委員をさせていただきます。精一杯させていただきますので、よろしくお願いします。

国の指針の中で、これくらいの人数が適正だというのがありますが、津波対策も含めて多面的・多角的な方向で考えを出していただきたいと思います。

委員の事で提言をしたら、民生員、児童委員、特に主任児童委員さんは、妊婦さん等もみるようになっていきますので、その方なんかの意見を入れていただいたら非常に助かるんじゃないかと思いますが、民生委員は入ってないですか。

○田内教育次長

委員の構成ですけど、先ほど申しましたように、まず香南市の基本的な考え方については、学識経験者、まちづくり、保護者、学校等の長、市職員となっていますが、第8条に委員会に部会を置くことができるとありまして、その部会については、個別具体的な方針について審議をしていただきたいと思います。そういった部会等に民生委員さん等に入っていただき、検討していきたいと考えています。最初は、教育学とか防災の専門家とかまちづくりの代表などを考えております。

○小松総務課長

ちょっと戻りますけど、山本委員さんから話がありました、収束していくまでの他の学校等の運営についてお答えがありましたら。

○安岡教育長

これは、具体的にはですね、例えば中学校がいくつあったらいいのか、小学校・保育所・幼稚園はどの程度という答申がされてからでない。その答申が出された後、どう具体的にやっていくのかという検討をしていくと良いと思います。

○山本委員

教育長の方からもありましたとおり、運営についてどうこうというのは、最終的に市長から示された3万人規模で中学校や小学校の配置をどのように、ということになってこようかと思いますが、前々からちょっと気になっておりますことは、少人数教育と複式学級というのは同じものじゃないということをはっきりさせておかないといけないと思います。少人数で効果を上げる教育の仕方というものはあります。

それからある程度人数が揃わないとできない事のために文科省も基準を設けているということだと思います。その上で今示された3万人という数字があるとすれば、その規模で中学校と小学校がどういった数にするかが考えられても良いのではないかと思います。

○小松総務課長

百田委員さんから話がありました、国の基準についてと、津波対策の関係は。

○田内教育次長

国の基準については手引きが出ています。小学校では10人学級

○安岡教育長

小・中とも合わせて。10人学級以上

○田内教育次長

小・中とも10人学級以上というのがありますけども、それが香南市にそのまま当てはまるとは思いません。国の基準を基に香南市でのあるべき姿というのを検討していただきたいと思います。

それと当然、津波等の浸水予想地域もありますので、それも併せた中で基本的な考え方、基本方針を作りあげたいと考えています。

○清藤市長

西内課長、3万人の人口で子供の数とかはシミュレーションで出ていたか。

○西内企画財政課長

年齢についてはシミュレーションをやっています。

○清藤市長

例えば、今年の中学校の卒業生は、300人位で今後どうなっていくか

○田内副市長

人口推計のお話を若干。人口推計というものをこの様にやっていますというのを簡単に説明します。人口の推移は、『自然増減』と『社会増減』です。

自然増減は、死亡と出生です。社会増減は、転入と転出です。香南市の場合は、過去10年間の全部の死亡と出生、何歳の女性がどの性別の子を産んだとか、何歳の方が転出をした等というのを10年間の全部の平均を年齢別にします。そしてその傾向を基に順番に将来を推計していったものが人口推計といわれるものです。人口推計では香南市の2060年の人口は2万3000人位です。

それで、これを3万人にするためにどうしたら良いかというのは、1つは社会増減です。この転入・転出につきましては香南市の過去10年間の転入してきた方のすべてのデータをおしなべた形で、120人と計算しています。これは毎年120人の社会増があると。要するに転出より、転入が120多くあるという事です。

それともう1つは、合計特殊出生率っていうのがあります。これは一生のうちに女性が子どもを何人産むかという数字です。今、香南市では1.5人位です。

これは、社会増減がまるっきりないと考えて、自然増減だけでいうならば、この合計特殊出生率は2.07人以上でないと人口は減っていくと言われていています。どうして2.0人じゃないかというのは男性が産まれてくる確率、女性が産まれてくる確率

など様々な事から2.07人を下回ったら確実に人口は少なくなるということが言われています。これを2060年までに最終2.27人までに段階的に引き上げていくと2060年に人口が3万人になりますというのが推計です。

その時に学校区の計算は、地区毎、学校区は明確に掴みきれない所があったので、30地区位に分けて人口推計していて、概ね学校区であろうというような推計値は出しています。ただ、先程から申していますように、香南市全体の数字でおしなべた形でやっていますので、例えば、ある地区で人口が増えていくのか、減っていくのかっていうものは、社会増減の毎年120人がどの地区へ入ってくるかで、大きく変わります。

ここの辺りは十二分に議論をしないと。香南市全体で120人増と言うような数字を使っていますので40年先のどの地域の人口推計、また子供の数等はなかなか出しにくい。

○小松総務課長

はい、ありがとうございました。

○安岡教育長

住宅を建てた場合と、田舎へ住みたいとなった場合、その間の住宅融資の金利を下げるというニュースが流れておりましたね。このように国も何らかの形で地方の支援をしていこうと思います。ただ、移住については、高知県内はもとより、どこもやろうとしていますのでね、魅力のある香南市にしていくためには、産業も子育ての支援のしかたも大事だろうし、教育というものも1つ大きな要素になってこようかと思えます。

○清藤市長

さっき副市長が、香南市へ平均的に120人来られる場合しか出せない。けれど現実はそのでないところも沢山ありまして。例えば野市町の母代寺周辺、それとフジの東西に新しい家が沢山建ちました。昨年、私は色々な地域を歩く機会が多かったですが、ここに行って『どっから来ましたか？お仕事の関係ですか？』と話した時に、以外と多かったのが『高知市から来ました。津波対策として浸水しない所という事で来ました。地価は3分の1位で、通勤時間もそれ程変わらないのでそれで来ました。』という人が多いです。

だからそういったことも今後は考慮していく必要がある。多いところは今のままを維持し、減少する地域なら今よりも人口が減らない施策をとっていく必要がもっとあるのではないかと。

○清藤委員長

それともう1つ、野市が増えているという事は、香南市内からの異動で野市へ家を建てたという人がいっぱいおられます。それともう1つは婚活です。それをしないと、子供を増やそうといっても、最近では婚期が遅くなり、40近くになって結婚する人は

子供が大体1人か2人。3人いうことはありません。大体3人以上の子供がおる家庭は、周りを見ても20代前半に結婚した人が多いですので、婚活をやって早い機会に結婚するにすれば子供の人口減少の対策となるのでは。

それと、クラブが無いという事で学校の区域外の許可を出す時に、野球であったら野市という事の様だが、委員会の方もそれについては一度見直しをすべきという話になっています。

#### ○百田委員

市の合併と自衛隊が来たのがほとんど同時期になるのか？

自衛隊が徳王子に来たのが18年。その自衛隊が来て何年か後には香小が多分330人位になって、今は270人、ざっと2クラス減っています。自衛隊自体の人数は変わってない。単身赴任が増えたのか、所帯持ちを市外へ移転したのかは不明だが、この10年足らずの間で60人も減ったということに関しては、人口動態から見てどうなのか調べてみても良いのではないかと思う。当然中学校も減っている。

#### ○田内副市長

自衛隊につきましては、合併して何年かして自衛隊が来られました。隊員と家族合わせて、概ね700人程度香南市への人口増があったということ。あと、自衛隊では若干の増減があつて、岸本が途中で阿南の方に行きましたし、そこでまた百何十人とか二百人は減っています。

あと、去年の人口動態だけ捉えれば、野市町自体も、もう人口減に入っています。これは平成26年～28年と見てみたら、多少でこぼこしていますので、まだ明確な傾向とは言い切れませんが、野市町でも減っているというのが香南市の状況です。

香南市全体でいうなら自然減は、何年も前から自然減なんです。そこを社会増、転入の数字でカバーしてきてどうにか人口が横ばいになっていましたけれど、その自然減を上回る社会増がない。つまり、転入数が段々減ってきたので、その自然減を人口的に補っていないという状況です。他の市町村については、もう数年前からずっとそういう減少が続いているというのが状況です。

#### ○清藤市長

自衛隊は平成21年に来まして、その時にドッと来たのでは無くて、3年後に演習場が完成したこともあり毎年実は増えています。平成23年度に、岸本に移駐しましたので、その分が相殺された形になっています。最初はみんな大体、駐屯地の中の官舎に住んで、何年かしたら官舎から出られる訳ですよ。Aコープの前に住んでいましたし、山北の方にも住んでいましたけど、それで段々と広がってきて、野市も多いし南国や高知市へも。それが香我美小学校の子供が少なくなっているという原因でもある。

#### ○小松総務課長

この議事に関して何かありますか。

○安岡教育長

教育委員会としては、そうした人口等を維持していくために、移住を促進していくというのは当然必要になってきますけども、教育長会とか教育委員会連合会とかの会合の後で聞いてみると移住してきた方の価値観になかなか苦労しています。『学校なんて行く必要ない、自然が一番の教育だから、自然の中に居れば良い』とか、『電気なんていらぬ』とかなかなか特色のある方がいると四苦八苦しています。仕事の関係でこちらへ来るという方はもっと対応しやすい。そんなことも考えておく必要があると思います。

○小松総務課長

議事の1番の方は、よろしいでしょうか。

はい、それでは次の議題に移らせていただきます。議題2の新学期の状況についてをお願いします。

○安岡教育長

新学期は、どの学校も特別な支援の必要な学級が非常に増えてきて、その子供の対応等あるいは学級増等で苦労をしているところです。私が着任をしたときの平成24年度には、60名位だった特別支援学級の入級生が、現在は120名近くになってきております。そのように非常に多くなってきているところへ、1つの特別支援学級に異学年の子供も混ざっている。そういったことも含めて大変苦労しているところがございしますが、現在はまずまず落ち着いたスタートが切れたのではないかと思います。

特別な支援の必要な子供だけでも親がどうしても認めない等、一部で本当に苦労している学校もございしますが、それから不登校のこともございします。先日は学力調査がございました、そんなことも併せて入野学校教育課長から説明しますのでよろしくお願ひします。

○入野学校教育課長

今年度が始まりまして、もうすぐ2ヶ月になろうとしていますが、この数年学力とか、不登校とかいうようなことが大きな課題としてあがっていますが、それに向けたこの2ヶ月の市内全体の取り組みと、それから現在の状況ということで、説明をさせていただきます。

4月7日に新年度の始業式それから入学式を行ってスタートしています。例年行っています香南市教職員総会を4月12日に行い、教職員に対して本年度の香南市全体としての教育行政方針と主要施策の周知・説明を、取り組みへの共通理解ということで行いました。本年度は特に市内小中学校の大きな課題になっております不登校問題に関して教育関係者全体で組織的に取り組む必要がありますので、一昨年、昨年、香南市教育研究所でこの不登校あるいは長期欠席に関する研究を行いました。

現在、赤岡小学校に赴任しております山岡まこと教諭からその研究内容を活用した

実践発表をしてもらって、研修を実施しております。先ほどの議題にも出ていましたけれども、本年度の児童生徒数は5月1日現在の数で減少しております。昨年より小学校の方が28人少ない1,760人で、中学校の方が58人少ない773人になっております。ということは、これも先ほど言うておりましたけれども、中学校が773ですので1学年300人切っております。小学校の方も1,760人ですので1学年平均で300足りないという数字になっております。そんな中で、小規模校においては岸本小学校で3,4年生と5,6年生の2つが複式学級になっております。それから吉川小学校についても2,3年生と4,5年生が複式学級という状況になっておりました。この2校が、複式学級が存在する状況になっております。反対に規模が比較的大きな野市小学校、野市中学校ですが、こちらにおいても野市小学校が4名少なくなっております。それから野市中学校の方も久しぶりに500名を切る状況、486名ということで、23名の減少という形になっております。全体の児童生徒数は減少しておりますが、これも教育長が言いましたように発達障害など、支援の必要な児童生徒数については、ここ数年増加している状況があります。こういった状況への対応も含めて、本年度も特別支援教育の支援員を市内で12名、それから生活学習支援員を学校に7名、それから森田村塾に2名の合計9名を配置して、できるだけきめ細かい教育支援ができるようにしております。

また、学校と家庭や関係機関の連携の推進を行ったり、つなぎ支援、家庭支援など行ったりするスクールソーシャルワーカーSSWを昨年度から継続して4名を配置して、中学校区を中心に活動を行うようにしております。また、本年度県から特別支援教育の充実に向けた、みんながスター校内支援力アップ事業というのがありまして、この事業に基づいて、県から1名特別支援教育学校巡回アドバイザーというものをこちらに配置をしていただき、教育委員会の中に座席を設けてそこから主に野市中学校区の3小学校を中心に、市内の全小中学校を巡回していただいております。

この仕事は主に各学校で行っているケース支援会、個別ケース支援会であるとか、あるいは校内委員会、学校コーディネーターさんがおり、このコーディネーターに基づいて学校の中の校内支援会を行っていますが、それへのアドバイス等にまわってもらうようにしております。お手元に資料2というのがあると思いますが、現在、市内のそうした学力向上問題とか不登校とかいうことに対する指定事業を受けて対応しておりますが、高知県教育委員会指定事業として、昨年度に引き続いて2年目として取り組むものとして、赤岡小学校で探求的な授業づくりのための教育課程研究実践、所管活用型推進校という取り組みと、それから野市小学校で国語科を中心とした教育課程拠点指定事業の取り組みを行っております。野市中学校では、比較的規模が大きい学校で教科の縦持ち研究、これも昨年度からやっておりますが、中学校組織力向上のための実践研究事業という名前でこれに取り組んでおります。本年度から新たに赤岡中学校の方では野市ほどの大きな規模ではありませんので、教科の縦持ちというのが自然になっておりますので、これが中学校の教科間連携におく授業力向上実践事業ということで、主にこれが学力向上に繋げる教員の教科指導力を上げる取り組みとなっております。その他、生徒指導関係で2年目として、香我美中学校区で児童生徒の自己指導能力を育成するために、小中が共同連携して組織的に取り組みを進める、未来に

輝く子供育成型学校連携事業という指定を受けて取り組んでいます。これは野市中学校がやっておりました、夢プロという事業の小中連携型の指定事業になります。また、自転車の安全運転教育に対する取り組みを継続して行っている佐古小学校において、高知県安全教育推進事業に取り組み、子供達の交通安全に対する意識アップを図る事業となっております。学校支援地域本部事業については、昨年度まで赤岡小学校、吉川小学校、野市東小学校、夜須小中学校で行っていましたが、今年度新たに野市小学校も取り組みを始めて、事業を広げる形となっております。

さらに、赤岡小学校は昨年度から取り組んでおりましたが、地域住民や保護者等が学校運営に参加するコミュニティスクールの制度運営に向けたコミュニティスクール導入促進事業に引き続き取り組み、新たに今年度から赤岡中学校と野市小学校もこの制度に取り組みを始める準備をしております。またICTの取り組みとして、本年度継続して野市小学校を香南市の指定事業として、ICT活用の実践校という形でICT支援員を1名継続して、野市東小学校を中心に研究を進めて市内各小中学校のICTの教育支援の研究を進めます。本年度は特にLANの整備が東小学校以外の学校へも整備を進める予定になっておりますので、そうしたものの活用支援と講義のデジタル化、特に教員の多忙化というのが最近言われていますので、色々な形でデジタル化することによって現在手作業で行っているものがもう少し効率的にできるものは、ということで、例えば通知表、あるいは指導要録こうしたもののデジタル化がどういう形で進めるかということの研究にも取り組むようになっております。連携教育についてもこれまで取り組んで来ておりますが、香南市保幼小中連携カリキュラムというのがありますので、これに基づいて、中学校区を中心に保幼小中それから家庭、地域こうしたものの連携によって課題となっております学力向上の問題や、不登校を含めた生徒指導上の課題解決を図る取り組みということに取り組んでおります。現在、ヒアリングを実施しております、今週、来週で全中学校区をやるようになっております、今は2中学校区のヒアリングが終わったところです。こうしたところの対策に向けた取り組みを進めているというような状況です。

大体の概要です。以上です。

#### ○安岡教育長

保育所、幼稚園のこと、それから生涯学習のこと、今年特に取り上げたいことがございましたら、報告していただきたいですが。

#### ○山下こども課長

私は、この4月から課長になったので、詳しい昨年度の状況というのは分からない部分もあるのですが、新年度が始まって特に変わったことがあるということは聞いておりません。ただ、教育長の話にもあったのですが、特別な配慮、支援の必要な子供が増えているという状況は続いているということです。それとまた子供ですので、発達の遅れの見極めがなかなか難しいという部分もあるし、保護者の方がそれを明確な違いが出ない状況で認めるということも難しい状況で、苦労しているということは聞いています。

ファミリーサポートセンター事業というのを昨年11月から香南市社会福祉協議会へ委託して実施しております。子育てを応援してほしいという『お願い会員』と、子育ての支援ができるという『まかせて会員』という形。それらの調整をして、地域で子育てをしていく仕組み作りというのが事業になりますけれども、現在の状況は、お願い会員が21名、まかせて会員が21名、両方会員が1名の43名位ということで聞いております。事業の充実には、応援ができる人『まかせて会員』充実が必要になってきますので、会員を増やしていくという取り組みに力を入れていきたいと考えております。

○小松総務課長

生涯は無いですか。

○田中生涯学習課長

はい。

○小松総務課長

それでは、自由に意見交換をしたいと思いますが、この件に関してのご意見等ありましたらお願いします。

○安岡教育長

昨日は、市長も出席していましたが、養護児童対策協議会の代表者会がございまして、そちらで社会福祉協議会の方から『子ども食堂』を始めたいという話がございました。現在のところ、月に1回第1日曜日だったでしょうか。野市町の山崎屋で始めたいという予定だという話がありました。

○清藤委員長

子ども食堂は朝食よねえ。

○百田委員

夕方までで、子どもは基本無料だけれど、保護者も来て一緒に食べてもかまいません。その代わり料金を少しいたいて一緒に食べるという話ではないか。

○山下こども課長

そうですね、月に1回、第1日曜日に開設をしてということで、子どもの居場所づくりとか、保護者の食事を作る負担軽減、あと、地域での子どもの見守りの体制づくりがねらいのようです。

○中元委員

その子ども食堂はどの辺りで開催していますか。

○山下こども課長

旧道というか県道沿いに山崎屋さんという所があって、まちづくり協議会とかもそこを拠点にしているという事です。

○田中生涯学習課長

岩神印刷の前って言うって言っていましたね。

○田内教育次長

道の北側、自転車屋さんの東になります。まちづくり自治会がサロンみたいなものを開いている所を日曜日に借りてやっています。

○清藤市長

昔呉服屋だった所。まちづくり協議会が借りている。

○小松総務課長

この議題の分はよろしいですか。

それでは、議題3に進みます。また、思いついたら質問していただければと思います。

○田内教育次長

休憩を入れて貰って良いですか。

○小松総務課長

あの時計で15分まで休憩ということで。

○休憩

○小松総務課長

議題3の不登校の改善に向けた取り組み状況についてよろしくお願ひします。

○安岡教育長

不登校は、非常に大きな課題で、学校だけでは改善できませんので、地区懇談会でも実情を訴えてまいりました。去年から、スクールソーシャルワーカー（以下「SSW」）4名に、支えていただいております。ごらんのようにみんな笑顔の素敵な方で、家庭の支援や、子どもの支援をする中では、笑顔の素敵な方ばかりですけれど泣いている事が多く有るのではないかなとも思っております。そうしたSSWの方が、実際に家庭訪問をしたり、学校や各関係機関との連携していく中での苦労とか、改善をしていって欲しい事等を聞いたうえで進めていただきたいと思います。

○小松総務課長

順番に言っていた方がいいですか。

○安岡教育長

自己紹介をしていただいて、竹倉さんから全体的なことの説明があるようです。あと、それぞれの補足があります。

○竹倉 S S W

それでは私から。

竹倉美智と申します。S S Wは平成20年から勤めまして、今年10年目に入ります。1年目は教育研究所におりまして、それから7年間、森田村塾に席を置いて香南市全域を見ておりました。昨年からは4人になりましたので、中学校区でそれぞれ4名が4つの中学校に関わるようになりました。

○小松（美） S S W

小松美鈴と申します。昨年5月からS S Wをやっております。よろしくお願いいたします。

○小松（優） S S W

小松優子と申します。S S W2年目になります。よろしくお願いいたします。

○大谷 S S W

大谷美保です。ご無沙汰しています。去年の4月まではお世話になっておりました。去年の5月から教育長に『さらに活躍の場を与えちゃろう。』と言われてまして、どんな場かと思いましたが、S S Wでした。至らない事が多いですけども、今取り組みをさせていただいています。よろしくお願いいたします。

○小松総務課長

そしたら、竹倉さんの方から。

○竹倉 S S W

まず、私たちS S Wの活動というのは、不登校の改善とか未然・予防それから関係機関への繋ぎで、多分華々しくなくて自分は黒子だと思っています。どんなことをしているか具体的に書き出してみましたので申し上げます。

私たちは学校に入っていますので、よく保護者さんと会いますので、保護者さんの相談に乗ったり、それから、家庭訪問をしたり、学校に配置されておりますスクールカウンセラーの先生との連携をしております。保護者さんにカウンセリングを勧めたり、あるいは研究所の『ほのぼの相談』を勧めたりしています。

それから、関係機関を交えての、ケース会とか学校への支援会にも参加をしております。子どもによっては教育支援センター森田村塾へも繋いだりもしています。それ

から、特別支援学級に入るためには教育相談をしなければなりませんので、そういう必要のある子どもには教育相談を勧めます。それから、子どもによっては、児童精神科の受診の時に保護者さんとその子どもさんと同行して学校での様子も直接伝えたり、ドクターからどういう対応をしたらいいのかということもお聞きしたりすることがあります。それから、病院だけでなく児童相談所、福祉事務所、児童養護施設とか、そういうところとも連携をしたり、同行したりしております。今こども課が、保育所、幼稚園などの年長さんへ『生き生き香南っ子相談』というのをやっておりますが、そこにも入らせていただいて子ども達の様子を見ていくようなこともしております。

それから、教育相談をした後で就学指導委員会の方にその結果が出てきますけど、そこには私が入らせていただいています。それから、福祉事務所が主催している『香南市要保護児童対策地域協議会』にも4人全員が関わっております。情報を提供したり、そのケース会の要対協の中でも意見を言ったりしています。それから、児童クラブとか児童館にも子ども達の様子を見に行ったりしています。特に最近やっておりますのは、中学校に入学するときとか、進級をするときとかいう、4月からクラスが決まって担任が決まってからの、不安のすごく多い、学校の新しい場面に行くのが心配なお子さんには、子どもと保護者を、学校と連携しながら中学校へ一緒に連れて行って、別室や保健室で、校長先生を紹介する。そういう事もしています。

今のところ私が関わっている野市中の1年生は、見学がうまくいって、登校を続けております。それが、私たちの普段の活動です。

ほぼ毎日学校にみんな行っています。委員会にせっかく席を作っていたのですが、学校が結構大変で、忙しいので、学校の方にほぼ居ります。毎朝行くと気になる子ども、ちょっと登校をしぶるとかいう子どもについては登校の受入といいますか、保健室の前でお母さんと離れられなくて車から降りられないという子どもが多いので、一緒に話をして保健室まで行って、そこでちょっと心を落ち着けて、1回くらい教室へ行ったりしています。そういうこともしながら、先生からも相談を受けることがありますので、そういうときは管理職とかカウンセラーの先生とか、学校には必ず不登校の関係で、コーディネーターをしてくださる、先生が今いらっしゃるの、その方と連携を取りながら相談をしたり、対応の仕方を考えたりしております。

それから、香南市は非常に不登校の数が多いですけど、実は数字の中には入っていないけれど、森田村塾に登塾をした場合は登校扱いということになっています。

#### ○安岡教育長

いや、違います。これは指導要録では出席扱いになりますけども、日々の出欠は全部欠席です。

#### ○竹倉 S S W

出席簿は自己欠にします。通知表へは、出席扱いとします。指導要録には、出席扱いとなると思います。それから、私たちが日々 S S W の仕事をしていて気になっていることが2つありまして、1つは発達に課題のある子ども達が増えてきています。特

に自閉症スペクトラム症、その他ADHDとかLDとかありますけども、非常に自閉症スペクトラムの方が多いと思います。ですから集団が苦手な子どもさんが増えてきていると思います。それと、感覚過敏ですね、音がすごくやかましく聞こえる、電気の明かりとか、外の明かりがすごく眩しく見えたりする子どももいます。これから梅雨に入っていきますけれども、不登校の時期の第1のピークは6月なのですが、この梅雨のベタベタ湿度があるというのに非常にしんどさを感じている子どもが多いです。特に課題のある子どもにしんどさがあります。ある男の子は、小学校から中学校に進学したときに、制服のツメ襟がたまらない、スラックスのズボンのチクチクが嫌なので裾を脛まで捲っています。やっとな夏のカットシャツになったのでちょっとほっとしているということで、この前の写生会時にはジャージ登校だったので生き生きとして来ておりました。そういう子供たちも非常に多くなってきています。それから、感覚がすごく過敏な子どもさんと、逆にすごく鈍い子どももいる。それから不器用な子ども、これ発達性協調運動障害と言うのですが、発達障害の中の1つです。言葉のとらえが、言ったまを額面どおりにとらえてしまい、例えばお家で『お風呂見てきて』って言うたら、ただ見てきただけ。保護者はお湯がいっぱいになっていたら止めて欲しいと思うけれど、『見てきて』って言ったらただ見ただけというような、額面通りにとらえてしまう子どももいます。

もう1つの気になっていることは、家庭の教育力の低下があると思います。今まで関わった子どもの中でもたくさんおりますが、家庭できちっと朝ご飯を食べさせていない子ども。それから、お風呂にちゃんと入れてない。洗濯がきちっとできていない。前の日に着た服をそのまま着てくる子ども。袖口に垢がこびりついている子どももおりました。それから、学校は行かなければいけないと思っていない保護者。朝一緒に寝ていて学校へ送り出せない保護者もおられます。それから、課題であります一人親家庭、特に母子家庭が多いと思います。母子家庭はやっぱり経済的に非常に厳しい家庭の方がいます。それから、生活保護の方もいらっしゃるの、子どもがちょっと登校をしづっても車で送ってやることができないというようなこともあります。それと数字には出せませんが、保護者、特にお母さんの精神疾患がちょっと多いかなというのがあります。ですから、兄弟児がたくさん居てもやっぱり順番に不登校になっていくという事がすごく多く、兄弟児が不登校になっている家庭は私たち4人とも抱えています。

これはお願いなのですが、学校には別室が必要かなと。森田村塾もありますけれども、基本的に子どもは、学校は『行かないかん所』と思っている子が多いので、別室でも学校へ行けたら、先生の話とか、ちょっと遠くの友達の会話が聞こえたりすることで、家で引きこもりになるより少しは社会性が身についていくのではないかと思います。別室を作ればそこに人がいるわけで、お金もいるので非常に難しい問題だとは思いますが、必要かなと思っております。

先ほど、自閉症の子ども達、梅雨時のベタベタが非常に厳しいので、できれば学校にはエアコンが欲しいなと思います。特別支援学級だけではなくて、通常のクラスで特性を持ちながら頑張っている子がたくさんいます。今、1%とかいいですけど、多分1.5%以上そういう課題を持った子がいると思います。以上です。

### ○安岡教育長

家庭訪問したときにどんな苦労があるかを教育委員、市長みんなに知ってもらった方がよいと思います。

### ○小松（美） S S W

私、家庭訪問するときは基本、担任の先生と一緒にいっしょに行かせてもらっているのですが、そこは母子家庭であり、家がすごいゴミ屋敷のお家があります。そんなときは、玄関からも入れない状態ですが、子どもが寝ているのが見えているので、起こしたいのですが起こすわけにもいかない。親御さんがいらっしゃったら、上がるわけにもいかないし、いないときでもやはり上がれません。

担任の先生と声を掛けて起こすのみです。本当に忍耐です。『そこにある服を着て早くランドセル持っておいで』って1時間粘ったときもあります。そういうのを続けていくうちに、お母さんも家に来られたくないというのがあるんでしょうね、少しずつ連れてくるようになりました。本当に地道なことがあります。1例です。

### ○小松（優） S S W

ソーシャルワーカーが家庭訪問するときは学校が繋いでくれる時と、学校外からの方に繋いでいただく場合と色々あるのですが、私たちは評価する立場ではないので、家庭訪問したときに、保護者の方も安心して学校が知らないような情報も話をしてくれます。それを持って学校とも相談したりするのですが、学校とか S S W だけでは十分支援しきれない家庭もたくさんあるので、そこをどう他へ繋げていくかっていうことが私たちの仕事かなという風に考えています。

人を繋げる事も必要ですし、バラバラになっている情報を繋げていく事もすごく必要になってきます。その情報量が多いほど家庭に対する『見立て』には、臨床心理士とかそういう専門職の必要性っていうのもすごく感じています。

### ○大谷 S S W

私は、去年1年間活動した中で感じてきた事をお話しできたら良いかなと。私は最初、本当にどういう風にしたらいのかまったく分からないままでこの S S W を始めた。最初は学校に行って、不登校の子がいるという情報をもらったりしました。

福祉事務所から、要対協に関わる子の事で学校の様子を教えて欲しいということから関わり始めた子がいて、その子は1学期の間で、ほぼ10日以上のお休みがあって、このまま行くと完全に30日の欠席になってしまうという状況でした。そこから、色々学校での支援が始まって、2学期、3学期と本当に元気に学校に来るようになりました。最終的には、2人の兄弟とも、27日と29日というギリギリのラインで不登校には引っかけずに、3月の時点を迎えることができましたけれども、やはり家庭の教育力ということで、母親がとても子どもを送り出す状態にはなくて、4月過ぎて、一時保護ということになっています。

私が教育委員の時も、この不登校という問題はいつも議題にあがっていたので、な

んかなればいいなという風に思っていましたけれども、学校だけの力ではとても改善できないなということを実感しています。というのも、保護者の家庭の教育力の弱さは本当で、子ども達は一生懸命学校へ行こうとするけれども、親が自分の都合で休ませてしまったり、寝ていて送り出せなかったり、家族が県外から帰ってくるので今日は学校休ませるとか、まるで、保育園、幼稚園の様で、そういうところをみると、学校は子どもに支援をできますが、家庭・保護者の支援というところは、経済的なこともありますし、色々な意味で教育行政だけではどうにもならないところもあるので、香南市全体の問題として取り上げてもらって、必要などころに必要な支援を送ってもらえたら、すごく助かるなあっていうのは実際のところ感じています。

でも、SSW同士の繋がりはあるので、ある学校から転校する、こっちへ転校しますよ、という時によく繋いでくれて、学校には来られないと思っていたが、修学旅行には行けたし、学校にも来るようになったケースもあります。

本当に活動が上手くいく時もあるし、どうやってもどうにもならない時もある。そういうような状況です。

#### ○竹倉SSW

先ほど美鈴先生が言いました、お家がゴミで汚いというケースは、具体的に申し上げますと、そこは犬が2匹おりまして、犬の糞がそこら辺りにあります。そこに子ども達が服を置くものですから、その服に犬の糞尿が付いています。一時、その子達は支援センターまで繋いだが、来ると臭いがすごいです。だから脱がして別の服を着せて洗濯して、帰りはそれを着せて帰るということでした。支援センターで頑張ったが、家庭が送り出す力がないものですから、ズルズルとなってしまうというような家庭です。

ゴミが多い家庭に非常に多いですが、何年前も、中学生のところを家庭訪問してもなかなか会えなかったが、福祉事務所と児童相談員さんと協力して、掃除を提案して相談員さんと私と二人で掃除した。

台所は踏み場がなく、至る所にゴミを突っ込んでいました。流しは使えませんが、お風呂場の椅子の上にまな板を置いて、そこで調理をしていました。トイレ、洗面所には、その中学生の子が小学校からの服を積み上げていて、それを絨毯代わりにして敷いて過ごしていました。1回の掃除では全部できなかったのですが、2回に分けて掃除をしましたが、1回目はゴミ袋が23個か24個位出て、ゴミステーションの蓋が開まらなかった。

1回きれいになって、お母さんにゴミの分別の仕方を教えてあげるとゴミを分けることができました。少しきれいなことを体験したので、その子は卒業式の時に友達をお家に呼んだということを知ったので、あれは良かったなど。

#### ○安岡教育長

なかなか苦勞があっています。学校の教員でも、部活動が終わってそのまま家庭訪問をして、部屋中がゴミだらけですから、『お母ちゃん掃除しようや』って言ってもお母ちゃん動きません。疲れているその先生が1人で全部きれいにして、それで、

『お母ちゃん済んだで、またきれいやろ』って言って、それからお母ちゃんの小言が始まる訳です。なんかガンガン怒られて。教員ももたないと思いますね。

○大谷 S S W

そうですね。学校へ入ってみて、先生方はすごく一生懸命で丁寧に関わっていると思います。それでも減らないということは、子どもに対する先生の指導以前に、なにかの問題があるという事ですね。あと、私は送迎がちょっとネックになっていて、森田へ行ける家庭はいいですけど、行きたくても保護者の免許がないとか、すごく家が遠いとかそういう場合は、すぐという訳には行かないので。

○安岡教育長

今は、送迎はどうなっているか。

○大谷 S S W

とりあえず、公用車を借りて私たちが行くようにしている。

○安岡教育長

今はできていると。

○大谷 S S W

そうですね。許可をいただいてからということですが。森田が直接行けるようになったらすごく良いと思いますがそういうわけにもいかないのです。急に『行ってみようかな』ってなったときに、『じゃあ』って言って積んでいけたらすごく良いですが、『じゃあ待って。今から許可取るから』という風になると、もう車がなくてまた明日となる。

そのタイミングを逃す児童がいる。そういうこともあるので、本当に改善していくためには、そのへんのところがすごく大事なあとこの感じています。

○竹倉 S S W

送迎は私はしていました。今みたいでは無かったので。その送迎をする時って、2人共が前を向いているので、以外とポロッと本音を喋るんです。その当時の地区長先生は、『あの車の送迎の時間は個人面談の時間やきね』と言って下さったので、私はそれをすごく大事にしていました。だから、何気ない会話の中で、子どもの情報やお家の話をぽっと話をしてくれたりしていたので、その時間はとても大切にしていました。

今はもう送迎が非常に厳しいことになりましたので送迎ができません。先日も生活保護の子どもが医療センターまで行くのに、ごめん奈半利線に乗って高知駅まで行って、そこから医療センター行きのバスに乗るといような状況でした。その子が行ったけれども帰りのバスがなくて、医療センターから高須の電車通りまで歩いて、だから疲れたので次の日は休み。そういう厳しさのご家庭もあるということです。

○山下委員

お話しを聞きながら、その通りだということを思ってきました。その中で、車をすぐ使えるということも、可能な限りできたらと思います。やはり、その時を逃すとなかなかできないということがあり、なにか方法があればということです。

お話しの中にもあったと思いますけれど、親御さんが生活に負けた状態です。もう何もできなくなっていると言うのが現状だと思います。子どもの世話も自分の生活も何もできないという状況に置かれている。その親御さん方も『なんとかしなければ』と思うことがあるのではないかと思います。私もちょっと関わったことがありますけども、親御さんを励ますという事に効果がある場合もあります。全部がそうでは無いと思いますけれど、ちょっと掃除を手伝ってあげる、大変やろうけど頑張ってくださいと声を掛けるとかがすごく励みになっているとそんな感じもしました。

仰るとおり、家の中も外もゴミという状態、どこかで親御さんもすぎるものが欲しいとは思っています。

○竹倉 S S W

そこを私たちは学校の先生ではないので、S S Wはお母さんの味方をしながら寄り添いながら上手く関係機関に繋いでいくということが大事ですね。

○百田委員

小松さんのお話の件で、民生委員さんが入って家の掃除をした経緯もあります。学校評議委員会で不登校の話をするときには、先生よりも民生委員さんが、近所の情報なり、家庭の情報を知っている場合があって、学校と民生委員さんとで支援した経緯もある。

色んなところと連携を取って、児童相談が動き出すには、なかなか時間がかかる。その辺を地域の3者の連携の中で、特に主任児童員さんなんかは子どもとの関わりを持つ仕事という意味で話加わっていただいて、地域の方と協力し合いながらできる家庭があれば、やっけて行ければいいかなあとと思います。

多分他の地区の民生委員さんかも子どものことに関しても色々関心持ってやっております。民生委員さんとか主任児童員さんなんかにもある程度守秘義務はかかっていますので、主任児童員さんや民生委員さんやまちづくり等と一緒に地域で子どもを育てる、という形でなんか良い方法がないかなと思っています。

○安岡教育長

やはり、民生委員さんがその家庭の状況を知っているという段階で終わるんでは無く、もう一步踏み込んでもらったら良いと思う。

○百田委員

なかなか難しい面もあるかと思います。ただ、情報は共有していた方が良いと思

う。以前は福祉事務所からも民生委員さんに生活保護家庭の情報が来ていたが、10年近く情報が来なくなった。その辺の情報共有が必要。これほど支援の子どもが多くなってきたら、学校とSSWとだけでは大変なことがあるのではないかと思います。

○竹倉SSW

私は慎重に考えていて、直接、民生委員さんの方には情報はお伝えしていません。どうしても協力を得たい人には学校長にお伝えをして、学校長から言ってもらうようにしている。自分も民生委員ですので守秘義務はあります。正直に言いますが温度差はあると思う。うかつには出しません。

もし、学校長がOKで『この件は民生委員さんに入ってもらいましょう』と言った時は、それはOKですけど。

○百田委員

なかなか難しい。すべて個別に違うと思いますので。

○安岡教育長

それと、お願いが出ていたが、公用車の運転が職員でないといかなあねえ。

○田内次長

そうですね。子どもの送迎というのはないですね。

○安岡教育長

保険対象に入っていないという問題がある。

○清藤市長

家庭へ訪問したり、体力的にも精神的にも色んなご苦勞もされているのではないかと思います。本当にお疲れさまでございます。ご存じの方もいると思うのですが、SSWというのができたきっかけというのがありまして、平成20年か19年だったと思いますけれど、近隣の自治体で小学生が亡くなったということがありました。県教育委員会の方で色々対応策を考えたときに、スクールカウンセラーの強化というのが出てきました。ところがスクールカウンセラーというのは学校にいますので、家庭を訪問する事はありませんから、学校と家庭を双方向で見るような機能が必要であるということ、その情報を一人ではなくなるべく多くの方が正確に掴むことによって、情報がより正確にもなるし、正しい手だてというのもできてくるということのできたのがSSWというもの。

今後は、次の段階でどういうシステムが必要かということにもなってくる。先ほど専門職の方が必要だというようなお話も出ましたが、それは県の方にも申し上げたいと思います。こういう専門職の人が必要であるとか、あるいは学校で、別室が必要であるとか、システム的なことでこういうことが必要であるということであればそれをやっぱり付け加えていくということが必要だと思います。

それと情報の共有というのは非常に大事なことだと思う。色んな事が非常に把握しにくいという状況で、より多くの情報提供、情報共有というのをどんな形で香南市はしていくのかそれも1つ課題だと思います。もともとこの総合教育会議というのは、そういうことでできた制度。いくなれば、市長部局も一緒にすることによって、財政的なことも含めて迅速な対応ができるだろうということでした。

今日、今すぐどうなる訳では無いですけど、新たなシステムでこんなことが必要であるということを皆さんに話していただいたら良いと思います。

#### ○安岡教育長

現在、全国で不登校の子どもは、小中学生が、122,897人。これは、四国の中学生が全員、学校に行けてないという人数だそうです。ですから、全国的な課題です。そして、その中で高知県は出現率が全国ワースト1。

こういう状況の中で、教育支援センター森田村塾に生活相談員として2名、退職した校長を嘱託で1名雇用しているんですが。要望として、現職の県費負担教員を1名は配置して欲しいという要望をあげた。

それともう1つ、出席簿では欠席だが、指導要録は出席という状況。それでは不合理だから、教育支援センターに通所した時も出席扱いにして欲しいという要望が出ております。

皆さんにSSWをお願いした時に、『こういう条件なら』と言われた中でまだ実現してないものが1つあります。それは、研修をさせていただきたいという要望があがってございました。先日、全国のSSWで資格を持っている人がどれくらいいるのかと言う調査結果が届いてまして、それによると、社会福祉士という資格を持っている方、教員の免許を持っているというのもある。この2つでも非常に少ない。

本来ならそういう資格を持って居たら良いのだろうけど、SSWさんがそういう資格が必要な人とする、足りない。こういう中で、今は理解のある人でも構わないという形になっています。なんとか、素晴らしいSSWさんが揃ってくれておりますので、研修の機会にも自信を持って行っていただきたい。

#### ○竹倉SSW

研修は自主的に行ったりしていますし、今まで児相の主催の研修は毎年2日間夏休みにやっていますし、色んな場面で行かせていただいております。

#### ○清藤委員長

部署は違うが似たような事業が沢山ある。そこを調整することも必要と思う。

#### ○安岡教育長

学校、教育委員会だけではなく、市の全体の組織の中で、課題として位置づけて取り組んで行かないとこの不登校の解決はなかなか難しいところがあります。

○山下委員

2つありまして、1つは、今、市長から出ていた色んな会のことも確かに大事かもしれませんが、今問題になってあがってくるご家庭というのは、そういう会議と参加するとか、意見を聞くとかとは、全く関係のない、世の中と一緒になってないご家庭ですので、そういうご家庭との間を繋いでいくのは、やはり直接ご家庭へ行って、その方々に会って話をしていくという事以外に無いのではないかと考えられます。

システムの問題もあるでしょうけど、繋ぐのはやはり最終的にその家へ行って直接その方とお会いをして話をしていくと言うことでないと、なかなか改善は難しいのが現状だと思います。そこら辺りをどのようにしていくのか。

それから、この不登校の問題が起こってきて、今、香南市の問題は、高知県が全国的にも非常に不登校が多い。その中でも香南市が特に多い。この事について、ずいぶん前から検討を進めて参りましたが、竹倉さんの方からもありましたように、家庭教育力の低下とか、あるいは、保護者の精神的な疾患であるとか、母子家庭が多いとか。色んな問題があろうかと思えますけれども、それは他県どの地域へ行ってもやはりあることだと思うわけです。その中で、香南市が何で数が多いのかという事の追求をもう少ししていかないといけないのではないかと。

私は、色んなところへ行って、あたってみましたがけれども個人情報であるが故に、そういったことは、香南市そのものも調べられません。ましてや、他の市町村の数字なんか掴むことはできません。他の市町村と比べて、香南市の何がどうなのかということの調査を進めていきたいと思えますけれども、なかなかそれが難しい。

なので、そこは行政が可能ではないかと、個人の状況を暴くのでは無しに、全体の数値としてどういう傾向にあるのかということが掴めるようになれば、少しは方向が見えてくるのではないかと思う。

○大谷 S S W

香南市が特に母子家庭が多いとか、そういうことは別にはないですか。

○山下委員

いや、それを調べられない。

○大谷 S S W

調べられないですか。私は、担当しているところに、市営住宅とか県住がすごく多くて、生活水準がそんなに高いのでないならば、自分が働きながら、子どもを送り出す、疲れる、だんだんできなくなる。そう言うのが、香南市は多いのかと思っていたが。

○山下委員

だから、その頭の中での仮定はできますけれど、実質どうなのかと。そういうことの把握が必要。

○安岡教育長

不登校の原因調査では、子どもの無気力がトップです。では、その子どもが何故無気力になったかが分からないのです。それともう1つあるのが、『いじめ』ではない友達とのトラブル。

○竹倉 S S W

最後に。保護者が困っていて、困っているというサインを出してくれたら、そこはもう解決が近いですよ。S O S が出せない家庭は問題やと思います。それと、今年の資料ですけど、不登校の要因としては、第1が不安の傾向があるというのが、新聞へ出ていたのですが、やはりこれは発達の問題があるというのがすごくあると思います。

いま、本当に困っているのが、児童精神科が、非常に少なくなっています。今までは医療センターに県職のドクターとかがおいでたから、すごく繋いでいって情報も貰っていたんですけど、立て続けに居なくなりました。高知大学医学部の方も、なかなか繋がらない。今すごくいい先生が、J A 高知病院の小児科にドクターがいるのですが、この先生がすごく良いので殺到してしまっていて、予約がなかなか取れなくなっています。それで、県として児童精神科のドクターを増やしていただきたいというのを県に言って貰いたい。

そこへ行って、例えばADHD傾向なら、薬が出たらすごく落ち着く。多動が少なくなるので、注意力もちょっと落ち着いてきます。ADHDは年齢を重ねるごとに落ち着いてきます。注意力は多少残りますけど多動がなくなって薬でだいぶ良くなります。自閉傾向は、発達検査をしてもらって、どこが得意で、どこが苦手かというのをはつきり出したときに、その数値を学校に出して貰ったら、その子の対応の仕方がすごく分かる。得意なところを伸ばしていったら、不得意なところもちょっと上がってくるという可能性もあるので、そこは専門のドクターに指示をしていただきたい。

今、繋げるところが非常に少なくなって、安芸病院も、5月の予約で夏休みとか3ヶ月はザラで、今は半年先位になっているという話を聞いています。県の方には是非是非、児童精神科の先生をお願いしたいです。

○安岡教育長

先程言った、一番の原因というのは無気力です。そうすると無気力になった原因。それから次に、友達とのトラブルですが、これの中にはトラブルになぜなるかという、そういった発達障害等のことも含まれると思います。3つ目にあるのが、高知県は特にあるのが、家庭内不安定。やっぱりこれは、離婚率ナンバーワンという、僕は関係があるのではないかと思う。

○山下委員

そういうことが予想はされますけど、実際に香南市はどうなのかということが。

○竹倉 S S W

教育長から指示があったので、去年度4月当初から3月まで、4月当初に関わった子達が3月にどうなったかという自分の判定を出してみました。34人中22名が4月の当初から言うと、3月には良くなっていました。だから関わったら、関わっただけのことが成果として出ていると思う。

変わってない子も最初は非常に良くない状態だが、途中で上がったり、また落ちたりしながら、最後にまた戻ってきたという子もいますので、やはり関わるのが大事かと思っています。

○安岡教育長

学校へ復帰した子は？

○小松（美） S S W

森田に行っていた子が、翌年は学校へ4月から行けている子は多いです。

○竹倉 S S W

通常クラスへも復帰できた子もいますし、別室へ行けるようになった子もいます。中学3年生っていうのは凄く大事な時期で、気持ちが進路に向いてくるので、『森田でずっとおってもいかなあ』、『学校行かないかなあ』って言って、去年の別室の子達、今年は全員自分の進路の高校に行けましたから。

別室でも学校に行く事というのは凄く大事になって思います。

○入野学校教育課長

この忙しい状況の中で、S S Wさんが関わっている子どもさんの個別の状況等をきっちり研究報告という形で出して貰っています。それで、A B Cの状況報告をして貰っているのですが、いきなり完全不登校の子どもが、学校へそのまま行けると言うケースは、もう本当に少ないかもしれないけれども、Cだった子どもがBやAとかいうような形で上がってくる子どもを見たときに、良い方向へ改善してくるケースがたくさんあります。

○小松総務課長

時間もだいぶきましたけれども、大体よろしいですか。この件につきましては。いくつかキーワード出てきていますので、また市の方で対応できる分については、対応していきたいと思います。で、公用車の話が出ていましたが、今の実態を教えてください、どういった対応ができるか。保険の事が一番の問題になると思います。総務の方が担当になると思うので、そこは相談をさせてください。

この議題につきましては、よろしいですか。

それでは、この議題についてはこれで終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。

○小松総務課長

それでは、最後の議題に入りたいと思いますが、委員の皆さまからその他の意見はございませんでしょうか。

無いようでしたら、事務局の方から2点ほど。

まず1つ、香南市担当行政相談委員の紹介という冊子を少し見ていただきたいですが、先だって行政相談委員さんの方と市長と一緒に話しをする機会がありまして、その中で1点、教育委員会の方をお願いをしておいて欲しいという件がありましたので、資料を持って来ています。ご承知の事とは思いますが、この5人の方々が香南市の行政相談委員として、現在活躍をしてくださっております。活動の内容については、1枚めくっていただきまして、大体毎月の行政相談、それと特設相談所の開設とか、行政懇談会の開催とかもしております。もう1枚めくっていただくと、今日のご希望というのはこの部分になりますけれども、行政相談出前教室っていうのがございます。この事業につきましては、県下に先駆けて平成27年だったと思いますが、香南市が始めたもので、委員の皆さんが小学校の方へ出向いて行って、行政相談委員の役割の説明とか、小学校からの相談を受け付けて、色々な話を聞いて繋げて行くということですが、寸劇とか入れて小学生にも分かりやすいような形で、大変工夫されて、積極的にやっておられます。その次のページからが、赤岡小学校の事例を載せさせてもらっておりますけれども、これ赤岡の委員の松井さんがまとめられたもので、内容を見てもらいたいのですが、こういった活動をされております。

平成28年度は赤岡小学校と夜須小学校で開催をしております。広報係宛に学校の先生から、『子ども達が地域を知って、自分たちで良くしようとする意欲や意識が高まった』、『非常に良い機会になった』という意見もいただいている一方で行政委員の方々も、是非香南市全域に広げて、取り組んでいきたいという要望が出てきております。それで、是非、教育委員会に協力をお願いをしたいということでございましたので、今日ちょうどこういう会があるので紹介させていただいております。学校教育課が窓口と思いますが、学校への相談もあると思いますので、ご協力の方をよろしくお願いいたします。

○安岡教育長

学校へは沢山の出前講座をやってくれという依頼が多いですね。地区懇でもあった、保健所からも来るし、税務署からも来るし、沢山来ます。今度、主権者教育というのが位置づけられております。その中で自分たちの権利だけではなくて、繋がりとか、住民自治という面も必要になってこようかと思っております。

確か、松井さんから、『赤岡小学校と夜須小学校行くので良いか』と言われるので、『いいでしょう。ただ、学校側にきちっと連絡しておいて下さいよ』ということで行って貰っています。

○小松総務課長

確かに、学校の先生からも、特に6年生は色々な行事が多いなかで、日程調整が難

しい。というご意見も出ています。当然、無理にという話ではないので、また調整していただいて、できる範囲でご協力の方をお願いします。

○小松総務課長

この件は、よろしいでしょうか。

それでは、あと1点は、次回開催時期になりますけど、例年通りの10月になりますが、その日程でよろしいでしょうか。だいたい、2月、5月、10月の間隔で今まで行っています。

○安岡教育長

10月はだいたい学校の予算関係の次期。次の3月はだいたい1年まとめ的なもの。課題とか成果とか。次長さんどうです。10月で。

○田内教育次長

10月をお願いします。

○小松総務課長

去年が10月31日で、10月の末に開いています。とりあえず、10月目処という事でよろしいですね。それでは、そのように進めさせていただきます。

○清藤委員長

10月に会をするなら、24日から27日までは、学校訪問をやっております。10月12, 18, 24, 25, 26, 27日と学校訪問が半日ずつ入っておりますので、その辺りは避けてください。

○安岡教育長

運動会も

○田内教育次長

10月末か11月で。

○小松総務課長

11月への順延も含めて、調整をさせていただきます。

○清藤市長

長時間のご審議ありがとうございました。

○小松総務課長

それではこれで、第1回の会を閉じたいと思います。お疲れ様でした。